

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	リバティキッズ		
○保護者評価実施期間	令和 8 年 1 月 15 日	～	令和 8 年 2 月 15 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	46	(回答者数)
			33
○従業者評価実施期間	令和 8 年 1 月 15 日	～	令和 8 年 2 月 15 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数)
			3
○訪問先施設評価実施期間	令和 8 年 1 月 15 日	～	令和 8 年 2 月 15 日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数)
			12
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8 年 3 月 25 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中で感じる本人の困り感、家族の困り感、関係者の困り感解消のために具体的な支援方法を提案できる 保護者同伴にて個別療育を行っているので、すぐに情報共有が行える 	<ul style="list-style-type: none"> 本人の発達状況や家族の心理状態、周囲のマンパワーや環境を考慮した支援の提案をお伝えしている 個別療育中に職員が保護者に対して、実際に直接練習を行ってもらい指導・助言を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> 個別療育にも実際に使っている教材を使用しながら具体的な例を提示する 支援の前後での変化がどのようにあったかの記録を行い、話し合いにつなげていく 家庭や関係各所で取り組みやすい方法について検討・共有を重ねる
2	<ul style="list-style-type: none"> 本人や保護者、関係各所と連携・共有をしながら支援を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に本人や保護者と情報交換を行い要望や困り感について聞き取りを行っている 子どもや保護者、関係各所からも、できるようになったことや困り感についても情報共有を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> (本人の気持ちは最優先だが) どちらか一方の意見のみが正しいということではなく、全方向にメリットが得られるような方向性を検討していく。
3	<ul style="list-style-type: none"> 多職種で連携しながら専門的な視点からチームでの支援を行っていること 	<ul style="list-style-type: none"> 特定の担当者だけの視点に偏らないように、専門職とも情報を共有しながら事業所内で分析を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に事業所内で多職種が連携し、よりよい支援方法の提案について検討していく 外部研修への積極的な参加

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> (児発・放デイ・保育所等訪問) 需要増加に伴い、日程調整が難しいこと 	<ul style="list-style-type: none"> 定員数が増やせないこと 総量規制が施行されていること 特定の時間帯(午前中の主活動の時間での訪問)に希望が集中している 市外からの希望もあり、効率的なルート確保が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> 現在ご利用いただいている子どもに不利益が生じないようにすること 訪問員を増やす 早い段階から調整を行い効率的なルート確保を行う
2	<ul style="list-style-type: none"> プライバシーに配慮した相談室で報告ができていないこと 	<ul style="list-style-type: none"> 日程調整が難航し利用時に説明をすることが多く、児童在籍のまま行うことが多い 	<ul style="list-style-type: none"> プライバシーに配慮し、相談室での報告ができることをお伝えし、希望される場所で報告を行う
3	<ul style="list-style-type: none"> 支援の質の平準化を図ること 	<ul style="list-style-type: none"> (悪いことではないが) 支援に対する理想を高く持っているため、職員個人が現実と自意識ギャップを大きく捉えすぎてしまっていること 	<ul style="list-style-type: none"> 支援知識、支援技術に関する研修の開催 障害特性の理解 職員間の支援方法の相談、情報共有の機会を増やす